

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム やかた

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100062		
法人名	コンフォートライフ合同会社		
事業所名	グループホーム やかた		
所在地	岩手県釜石市大町3-9-16		
自己評価作成日	平成30年8月1日	評価結果市町村受理日	平成30年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0391100062-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0391100062-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年8月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人らしい生活が維持できるように、個々の希望や状況に合わせたケアを心がけています。利用者と家族、職員や地域の方々と、共に励ましあいながら支援できるような関係作りに努めています。利用者が、大好きな釜石でとにかく楽しく過ごせるように「ほっと一息ぬくもりのあるやかた〜一日十笑〜」を介護理念に、いつも笑いの絶えない毎日にできるようにし、おひたし(怒らない、否定しない、助ける、指示する)を加え職員1人1人意識を共有し支援させていただきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一建物内に小規模多機能施設、認知症対応型デイサービスが併設されている。施設が新しく防災設備等も充実しており、施設自体も開放的で明るい印象である。本年7月に既存施設に連結する形で施設を増築している。市街地中心部に近く、周辺には商店や医療機関、住宅、公共施設等も立地し、利便性の良い施設である。職員は明るい雰囲気、食事の際の会話など利用者へ配慮した対応しており、理念に沿った楽しい雰囲気を作り出している。また、利用者が職員と一緒に児童の下校の際の見守り活動や近所の商店利用、散歩など、地域との繋がりが、交流に積極的に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム やかた

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りで介護理念と目標を復唱し共有して実践するように心がけている	理念を「ほっと一息ぬくもりのあるやかた～一日十笑～」とし、日々のサービス提供場面を振り返り、理念をケアに反映させるため、職員相互間の行動目標として「おひたし(怒らない、否定しない、助ける、指示する)」を新たに加え、共用ホールに掲示している。申し送り時に管理者が率先して復唱し、理念を共有するとともに、ケアの実践に繋がるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園園児や小学校児童が学年ごとに、定期的に劇や歌、遊戯を披露に来所して下さる。また放課後スクールガード実施している。	保育園児や小学校児童と定期的な交流があり、定着している。地域の方には施設行事の文化祭やカフェに参加していただいている。この地域出身ということもあり、管理者は町内会の役員に就任し、消防分団等の地域関係者との繋がりも深く、地域との交流に積極的に取り組んでいる。	日常的に買い物、散歩で近隣の商店等に出かけ、小学校の通学路になっていることから、下校時の子供見守り隊として利用者と職員が一緒に参加し「お帰り」などの声掛けするなど、近隣の人達とのふれあう機会が多い。これからもこのような取り組みを継続されることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練前に車椅子の操作方法や、手引き歩行の安定性、声掛けの仕方を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で有識者、行政、利用者や家族、職員も参加し多方面から報告や意見があり介護職員も参加し報告をしている。	運営推進会議は、1階の小規模多機能と合同でも実施している。委員には行政OBもいるため、施設に対する意見も多く活発な会議になっている。グループホームの家族は遠方に居住しているため委員に就任していない。	運営推進会議の充実を図るため、警察・消防関係者に事業所の実情を把握してもらうこと、特定の委員が長期間出席していない状況もあることから、委員選定について、委員個人を固定しないなど弾力的な運用の導入について検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターと連絡を密に取り、情報を提供し協力関係を気づくよう取り組んでいる	運営推進会議委員には市職員も参加しているが出席出来ないことが多いため、市役所もすぐ近くにあるので、事業所運営や利用者の暮らしぶりの報告や相談、認定更新手続き、生活保護の関係で頻りに担当者で面談するなど、日頃から連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行われる職員全体ミーティングを利用し、身体拘束について研修を行い、検討を行なっている。	事業所内にリスクマネジメント委員会(3人)を設置し、指針策定や研修を実施している。玄関の施錠はしていないが、警察からは施錠を促されているとのこと。スピーチロックの研修会も行っており、不適切な声掛けや発言に注意するように話し合っている。その結果を踏まえ、職員行動目標を策定した経緯がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修を行い防止に努めている。身体拘束を発見した場合にはすぐ報告するよう職員間で務めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されている方がおりミーティング時に説明を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族には契約時詳細に説明し理解していただくよう務めている。締結以降も疑問点がありましたらご連絡頂けるように伝えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へは家族代表に参加頂き意見ができるよう心がけている。	利用者家族代表は、運営推進会議を欠席することが多く、家族からの相談、要望は面会訪問時に聴くことが多い。利用者とは職員と1対1になった際にコミュニケーションをとっており、思いや意向とともに、要望も聴くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度全体ミーティングにおいて連絡事項や職員から意見提案を聞き改善できるものは反映させている。	毎月の全体ミーティングは日勤と遅番の職員の概ね10人程度が参加している。職員からの意見は個別に出ることが多く、その都度相談に応じている。休憩時間の過ごし方について職員から要望が出され、施設増築時に休憩室を整備したところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力を正當に評価し成長できるよう整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は積極的に参加しミーティング後に報告会を行っている。また、施設内研修にて職員全体で知識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修や介護イベントを通じてネットワークづくりや活動を行い取り組みを行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に戸惑う方も多いためできるだけ多くコミュニケーション回数を増やし安心して暮らせるように職員全体で環境づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用時家族が困っていること、不安なこと、要望等はアセスメントしながら聞き、簡潔つくりを構築できるよう務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族からのアセスメントを行ないながら話を聞き必要な支援がどのようなものかを判断するよう務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まず施設内においてご本人が何ができるかを探り与える環境ではなくできる環境は何かを探るよう務めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆は最優先でありサポートしていくスタンスとして業務を行なうように務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の面会者が気兼ねなく来れるよう、訪れやすい環境づくりを心がけている。	現在の利用者は、災害で家族や自宅を失った人が多く、地域との繋がりが薄れてきているが、近所の商店や理容店にはよく出かけている。お店の方でも利用者の要望に合わせた対応をしてくれており、新たな馴染み関係が構築されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう職員が積極的に話しかけできるだけ周りの利用者を巻き込み話をしようと努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所された方は定期的に関係機関、家族の方と連絡を取り相談に乗るよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通して希望や意向の把握に努めている。	昼食後、入浴時、夜勤など一対一の際に職員から利用者に声掛けし、他人に言いづらい悩みや要望などを聴き出し、利用者の思いや気が付いたことを書き込みができる体制としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを通して本人の過去や経歴を聞き取り把握している。また家族からも聞き取りを行い意向の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできることを優先にし日々の心身の変化に注意し把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活における変化についてカンファレンスを開催し意見やアイデアを集い反映させるよう努めている	カンファレンスは6か月に1回開催し、家族からは事前に意見を聴いている。利用者の意向を出来るだけ大切に、今出来ることを探してプランに反映させるとともに、それを継続できるようケアに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケア記録を記入し情報を共有して定期的に介護計画を見直している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望時近所の商店への買いものを行なっている。喫煙者は屋外で喫煙してもらい購入時には近くの商店まで行っていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1度施設へ美容院に方がいらしてカットを行なっている。馴染みの美容院がある方は自費ヘルパーを頼みお店まで行かれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院と往診利用されている利用者がおり家族本人の希望に合わせ適切な治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は、継続することを原則としているが、継続が3人、紹介状をもらって変更した方が6人となっている。現在、全員が近所の協力医をかかりつけ医としていることもあり、円滑に連携が図られている。また、他の医療機関にリハビリのため、ヘルパー自費利用で通院している方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化時迅速に看護師に連絡相談するようにし緊急時には緊急搬送を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	詳細に記録したサマリーを入院先へ届けている。定期的、退院時には病院関係者と連絡を取り関係づくりを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、看取り介護方針を説明し地域の医療機関と共に支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に関する指針を説明し同意を得て、看取り介護についても対応している。開所以来の5人の看取り介護を行っており、看取り介護が必要となった場合には、市内の往診クリニックと連携する体制が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや外部研修、当施設看護師から処置方法を学び実践できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民、消防にご協力いただき年2回避難訓練を行っており地域に協力している	年2回、消防署と連携して避難訓練を行っている。1回は夜間を想定した訓練を行ったところ、職員2名と地域の協力員5名でも利用者の避難完了まで9分かかった。消防署からは、訓練想定を変え避難シュミレーションを複数化して訓練を実施するよう指導があり、今後の訓練に反映させることとしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼がないよう丁寧な受け答え、挨拶するよう職員同士が意識をしている。	オムツ利用が他の利用者に分からないようにするなど、利用者に関する職員間の会話でも利用者が特定されないよう配慮している。しかし、徹底されない面もあり、職員相互の行動目標を策定している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定していただくよう働きかけていて利用者が自分の思っていることや感じていることを常に言えるよう環境作りを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間は利用者に任せている。食事もできるだけ利用者の気持ちに合わせるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度施設へ美容院に方がいらしてカットを行なっている。馴染みの美容院がある方は自費ヘルパーを頼みお店まで行かれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いアレルギーを考慮して食べられないものは代替で対応。食器洗いや皿のふき取り、準備等派はできるだけ利用者に行ってもらっている。	食事の準備、調理、盛付け、下膳と利用者ができる範囲で一緒になって行っている。献立は委員会を作り利用者の希望も取り入れ、季節に合わせた行事食や誕生会には該当者の好きなメニューを出すなどの工夫をしている。火曜日はフリーメニューの日として、残っている食材から利用者と一緒にメニューを考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をこまめに摂取できるよう好みの飲み物をいつでも飲めるようにセットしているし自動販売機で購入することができる。嚥下機能低下が見られる場合にはミキサー食、刻み食、トロミをつけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が全員に声がけを行い介助。就寝前には声がけをし入れ歯洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力を生かしてできるだけトイレでの排泄を提供したいことから声がけや介助を行っている。	自立1人、常時おむつ2人、リハビリパンツ6人となっている。排泄チェック表により個々の状況に合わせて、さりげない声掛けと誘導を行うとともに、職員間で情報を共有している。トイレの清潔保持と臭い防止のため、清掃の他、消毒を朝・夕行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を提供しなるべく下剤を服用しないよう心がけている。朝のラジオ体操を毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する曜日や時間は限られているができるだけ本人の希望の添うように入浴を行っている。ADL低下が著しい方には特浴を使用して安全に入浴を行って頂いている。	入浴は、通常週2回、1回20分程度で、時間帯は特に決めていない。特浴設備があり、対象者は3名いる。一般浴は、2人体制で着脱介助と入浴介助を別々に行い、利用者と職員がコミュニケーションをとれる楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望の応じて仮眠を取っていただけるようにしている。生活空間において仏壇等個人的な私物を持ち込んで頂いて安心して暮らしていただけるよう環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方薬説明書を保管していつでも確認できるようにしている。薬変更時は看護師を通じ職員へ周知を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近所へ買い物やお墓参りを行っている。喫煙者には喫煙所にて好きな時に喫煙できるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お祭りやショッピングセンターへの買い物、散歩を生かしてお墓参りを行なっている。	釜石よいさ等の祭りには、介護ボランティアの協力を得て希望者が出かけている。釜石大観音見学にも招待されて車でやっている。大型店の買い物は、利用者に不評のため、散歩がてら日常的に近所の商店に行くことが多い。買物は本人が財布を持ち支払いを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は事務所で管理しているが、買い物をする時には、本人の希望金額を入れた財布で好きなように買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合には施設から電話をしたり携帯電話から通話を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自己作成したもの、園児が作成したものを廊下からロビーに展示し生活観や花を飾ったり季節感を取り入れている。	階段を上がった居室は花の名前をつけて大きく分かりやすい表示となっている。廊下伝いに収納兼飾り棚を設置し、利用者の手作り品や園児の作品の展示場所としているが、これらを持ち歩く利用者があるため展示を縮小している。また、廊下には小ベンチを置いてホールでは話しにくいことも話せるよう配慮している。ホールでは、2台の大きなテーブルを囲み利用者が寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人掛け、2人掛けのソファを配置し利用者一人一人のその時にあった気持ちや気分によって座る事が可能にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前の生活空間に存在したもの(テレビ、タンス、仏壇等)を持ち込んで居心地よく過ごせるよう工夫をしている	居室は、ベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられており、24時間換気設備も設置されている。テレビや仏壇等の馴染みのものを持ち込んでいる。テレビは6名で夜はテレビをつけたまま寝てしまう利用者もいるが、職員が消すなどの対応をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ内に使用中かどうかすぐ確認できるように大きな箱物を設置したり自分でできることはお任せしたり自立した生活が送れるよう支援しています		